

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463460

研究課題名(和文) 高齢者ケア施設の新任期看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育方法の創出

研究課題名(英文) Creation of the Educational Support Methods of Enhancing Nursing Care Competencies for Newly Recruited Nurses in Elderly Care Facilities

研究代表者

坪井 桂子(TSUBOI, KEIKO)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80335588

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護倫理、老年症候群、急変への対応、看取りの看護実践能力を育成する教育方法を創出することである。一般病院、高齢者ケア施設の新任期の看護師に教育支援を行った37事例を分析した。教育方法として、高齢者看護の志向性を尊重、ニーズの本質を捉えた援助方法を助言、当事者主体の思考と最善のケアを追究、チームケアの意義と実践を強化することが示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to create educational support methods for enhancing the nursing care competencies of newly recruited nurses at elderly care facilities for handling nursing ethics, geriatric syndromes, emergency procedures and end of life care. For this reason, 37 cases of educational support given by the joint researchers at general hospitals and elderly care facilities were recorded and analyzed. The obtained results suggest some effective educational support methods for enhancing the newly recruited nurses' competencies. They are to respect the intentionality of elderly care, to recommend assistance methods which address the essential needs, to pursue thinking process and best care focusing on the elderly concerned, and to reinforce the significance and implementation of team care.

研究分野：Gerontological Nursing

キーワード：高齢者ケア施設 新任期看護師 看護実践能力 育成 教育支援 教育方法 事例

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会が進む我が国では、地域包括ケアシステムの構築において、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、療養型医療施設などの高齢者ケア施設の基盤整備が急務となっている。この基盤整備には、看護の質も問われており、看護職には高齢者看護の実践能力を有することとその育成が喫緊の課題となっている現状がある。

一方、我が国において基礎教育課程の中核をなす看護系大学が創設された背景の一つに、医療施設に限らず、高齢者ケア施設や訪問看護ステーション等様々な場で活躍できる人材育成への期待が挙げられ、2017年現在、新卒者の就業は、僅かながらも増加しており、高齢者ケア施設においても、新任期(1~3年)の看護師の育成を拡充する必要がある。つまり、これまでのように、まずは一般病院の経験を経てといった既成概念や固定観念に捉われない、新任期の看護師の教育支援を整備し育成するために、効果的な教育支援方法を創出する必要がある。

研究代表者らは、高齢者ケア施設に就業し看護実践能力を高めたいという学生のニーズを基に、これまでに高齢者ケア施設の新任期の看護師の高齢者看護の実践能力の育成に関する研究を行ってきた。具体的には、10の大項目からなる高齢者看護の実践能力を明らかにした上で新任期の看護師の教育支援プログラムの作成を試みた。

次に、作成した教育支援プログラムを介護老人保健施設の新任期の学士課程卒業生1名に3年間適用し、新任期の看護師の実践は看護の質向上に貢献することを確認した。加えて、新任期の看護師の教育支援に強化が必要な4つの看護実践能力および教育支援上の課題を明らかにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高齢者看護の質を高める方策を考えるために、高齢者ケア施設の新任期の看護師の教育支援において強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法を創出することである。

具体的には、以下の2点を明らかにする。

1) 高齢者ケア施設(療養型医療施設、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム)において、新任期(1~3年)の看護師に強化が必要な看護実践能力(倫理的に優れたケアをチームで実践するための取り組み、老年症候群による症状に応じた生活援助、心身の変化を早期に捉えた援助、安楽で安寧な看取りに向けた援助)を育成するための教育支援方法を明らかにする。

2) 強化が必要な4つの看護実践能力を育成する教育支援方法を統合・再分析し、教育支援の中核となる内容を明らかにする。

3. 研究の方法

1) 一般病院・療養型医療施設・介護老人保健施設において共同研究者が新任期の看護師に強化が必要な4つの看護実践能力について教育支援を実施した。

分析対象とした37事例は、倫理的に優れたケアをチームで実践するための取り組み4事例、-1老年症候群による症状に応じた生活援助:老年症候群13事例(老人性難聴、嚥下障害、浮腫、不安、せん妄、不眠、掻痒感、尿失禁、便秘、脱水、転倒・転落、疼痛、食欲低下)、-2老年症候群による症状に応じた生活援助:BPSD9事例(介護拒否、攻撃性、異食、帰宅願望、妄想、不潔行為、収集癖行動、徘徊、睡眠障害)、心身の変化を早期に捉えた援助6事例(誤嚥、低血糖、心筋梗塞、脳出血、骨折、イレウス)、安楽で安寧な看取りに向けた援助5事例(死が差し迫った看取り期から臨終後に到るまで)である。

事例は、本研究で独自に作成した教育支援事例検討シート(テーマ、新任期の看護師の特性、事象、教育支援のアセスメント、教育支援の目標、教育支援方法、教育支援の結果)に記録した。教育支援方法は、類似性に基づき分類・整理し、高齢者ケア施設における適用可能性を検討した。

2) 次に、37事例の教育支援方法の大分類を統合・再分析し、類似性に基づき整理した。

倫理的配慮として、A大学倫理委員会に審査を申請した結果、本研究は共同研究者自身の教育支援事例を用いて教育支援方法を創出する研究であり、審査不要と判定された。事例は、個人や施設が特定できないように情報の記載は最小限とし匿名化した上で厳重に管理した。

4. 研究成果

1) 4つの強化が必要な看護実践能力を育成するために必要な教育支援方法を以下に示す。なお、大分類を【】、小分類の一部を示す。

倫理的に優れたケアをチームで実践するための取り組み

倫理的に優れたケアをチームで提供する看護実践能力を育成する教育支援方法として、5の大分類と、12の小分類が示された。

【日常生活援助における埋もれている倫理的課題への気づきを促進】するため、新任期の看護師の思いや考えの表出を促すことで抱えているジレンマや課題を整理し、ともに支援にあたる姿勢を示す関わり、また新任期の看護師自身の価値観への気づきを促し、高齢者の意向に沿った援助の方向性を確認する教育支援方法が示された。

【高齢者の意思を尊重したケアを追究】するため、言葉で適切に表現出来ない高齢者の思いや苦痛を推し量り、高齢者のニーズに

視点が置けるように発問(する)し、高齢者の思いに沿った支援に向けて多職種と連携する必要性を助言(する)ことで、チームでケアをつなぐ姿勢を養い、さらには、高齢者の保持する力とニーズを見極めケア方法を検討し、役割モデルとなって実践(する)などの教育支援方法が示された。

【役割モデルを実践し、関係職種との調整方法を提示(する)するには、高齢者と家族の意向に沿うように関係職種や施設間における調整方法を示す(する)高齢者と家族の意思決定を支える教育支援方法が示された。

【高齢者の尊厳を組織全体で護ることを推進(する)するには、チーム全体で高齢者の尊厳を護ることができるよう、チームケアの調整を図(る)り、高齢者と家族の望みを実現するケアに向けて、チームの行動を支持(する)教育支援方法が示された。

【日常生活にある高齢者の自律や尊厳を護る態度の醸成(する)するには、高齢者の意思をくみ取り、支援に活かそうとする姿勢を見守(る)り、新任期の看護師の実践を見守(る)り、高齢者の意向を確認する援助ができることをフィードバック(する)教育支援方法が示された。

以上より、思いや気づきの言語化を促(す)ことを通して倫理的課題を明確化し、高齢者の尊厳を護るケアの必要性の理解と、関係職種とともに高齢者への最良のケアを追究する姿勢が倫理的に優れたケアを提供する実践能力の育成に重要であることが示された。そして、高齢者に対する倫理に適った看護実践をチームで推進(する)ための教育支援方法が示された。

-1 老年症候群による症状に応じた生活援助：老年症候群

高齢者の老年症候群による症状に応じた生活援助を育成(する)教育支援方法として、老年症候群では、8の大分類と、35の小分類が示された。

【主体的な姿勢を尊重し実践をつなぐ力を促進(する)するには、新任期の看護師の気づきを糸口に援助を共に見だし、主体性を尊重(する)ことを基盤に、実践の振り返りを促(す)し、実践の価値を意味づけ(る)、実践を見守(る)り、効果的なアプローチにつなぐ(る)教育支援方法が示された。

【苦痛を想像する力を基盤に緩和ケアを具現化(する)ためには、高齢者の苦痛の体験を想像できるように問いかけ(る)、老年症候群の症状である 嚥下障害のアセスメントと誤嚥に伴う苦痛を緩和する援助方法を助言(する)ことや、高齢者の 保持している機能に着目し、さらなる痛みを予防する援助を助言(する)教育支援方法が示された。

【日常生活援助において些細な変化を捉(え)ることの意味づけ(する)を、日常生活援助の中でアセスメント(する)方法を助言(する)ことや、症状の兆候を見逃さないために些細な

変化を捉(え)ることを助言(する)し、高齢者の日常生活援助を共にする(る)介護職の報告を意味づけ、必要な観察や対応を確認し合う重要性を伝える(る)教育支援方法が示された。

【BPSD を苦痛のサインとしてアセスメント(する)方法を助言(する)する教育支援方法として、高齢者の 言葉にできない苦痛をアセスメント(する)方法を助言(する)ことや、援助に伴う苦痛が BPSD の原因となりうることを助言(する)ことなどが示された。

【高齢者の生活史をふまえ、保持している力が活かされる援助方法を助言(する)する教育支援方法として、高齢者のできる力を見極め、力を発揮しやすい援助の工夫を助言(する)ことや、生活史を活かした心地よい環境づくりを助言(する)ことなどが示された。

【高齢者の尊厳を護る基本的な役割を確認(する)するため、日常生活援助において 高齢者の自尊心を護る排泄援助の原則を確認(する)、一口でも美味しく食べることを重視し、無理強いしない方法を共有(する)ことや、高齢者への 抑制や薬剤使用の弊害を理解し、安易に実施しない原則を確認(する)教育支援方法が示された。

【高齢者と家族の意思を尊重する態度の醸成(する)に向け、高齢者の思いに寄り添う姿勢を支持し、実践を意味づけ(る)、新任期の看護師が 家族の思いを受けとめ、援助の意図と方法を伝えることの意味を確認(する)教育支援方法が示された。

【チームケアの意義を認め合う関係性の構築(する)に向け、チームで援助の意義・目標を共有(する)場をつくる(る)ことを通して、介護職をはじめ多職種と協働し、援助を検討(する)意義を確認(する)教育支援方法が示された。

以上より、新任期の看護師が、高齢者の苦痛を細やかに捉(え)、苦痛を緩和する実践を主体的に見出すための支援方法が具体的に示された。新任期の看護師が日常生活援助の実践を通じて、高齢者の苦痛を想像する力を高め、チームで緩和ケアを具現化(する)ことが、老年症候群の症状に応じた実践能力の育成において重要であることが示された。

-2 老年症候群による症状に応じた生活援助：老年症候群

高齢者の老年症候群による症状に応じた生活援助を育成(する)教育支援方法として、認知症の BPSD では、7の大分類、29の小分類が示された。

【BPSD に直面した感情と向き合う力を強化(する)するには、新任期の看護師の BPSD に直面し揺らぐ感情を受けとめ(る)たうえて、気づきを糸口に援助を見いだせるよう振り返りを促(す)し、実践を共に振り返り意味づけ、援助に向け課題を確認(する)教育支援方法が示された。

【BPSD の要因を探究する具体的なアセスメント方法を助言(する)する教育支援方法として、高齢者の 言葉にできない高齢者の苦痛の観

察・アセスメント方法を助言（する）し、BPSDが生じた状況を比較し、要因をアセスメントするよう助言することや、快・不快の反応を捉えBPSDのアセスメントに活かすことを助言することなどが示された。

【中核症状に伴う生活機能障害を補い、能力発揮できる援助方法を助言】する教育支援方法として、BPSDと中核症状の関連をアセスメントできるよう助言することや、中核症状による生活機能障害を補い、高齢者の持つ力を発揮しやすい援助の工夫を助言することなどが示された。

【BPSDをなくすことに捉われず、尊厳を護り、安寧を目指す援助方法を助言】する教育支援方法として、援助の目標はBPSDをなくすことではないことを確認することを基盤に、BPSDの背景にある高齢者の生活史、文化、価値観から援助を工夫することを助言することや、心地よい排泄に向けたアセスメントと援助方法を助言することなどが示された。

【脅かされがちな尊厳を護る意味と果たす役割を確認】するため、尊厳を護るために倫理的感受性を高める働きかけを（する）し、日常生活援助として尊厳を護る入浴・排泄援助の基本姿勢を確認する教育支援方法が示された。

【失われていない高齢者の思いを家族につなぐ役割を助言】する教育支援方法として、高齢者と家族の喪失体験への理解を深める重要性を助言（する）し、高齢者と家族が絆を感じ合える場を調整し、思いをつなぐ役割を助言する教育支援方法が示された。

【BPSDと向き合いケアを創造するチームの力を推進】するには、新任期の看護師と共に、チームで援助の意義・目標を共有する場をつくることを通して、BPSDへの不安・困難感と向き合おうとするチームの成長を支える方法を示すことや、介護職に援助の根拠を説明し、援助方法を共有する教育支援方法が示された。

以上より、新任期の看護師がBPSDに直面した感情を支え、BPSDを表面的に捉ることなく、要因を探究する思考へ転換を図る教育支援方法が示された。新任期の看護師が、高齢者の尊厳を護る役割を理解し、高齢者と家族の思いを尊重し、チームでケアを創造することが、認知症のBPSDに応じた実践能力の育成において重要であることが示された。

心身の変化を早期に捉えた援助

心身の変化を早期に捉えた援助に向けた看護実践能力を育成する教育支援方法として、4の大分類と、21の小分類が示された。

【辛かった感情を表出し、向き合う過程を支持】するため、まず急変時の辛かった感情を表出できるよう言葉をかけ（る）、そのときの状況をどうとらえたのかをありのままに話してもらい、否定せずに話を聴き、受け止め（る）、振り返りを促す言葉かけを行う

ことで、状況を整理し、今後に向けた自身の課題を見出すことができるよう促す等の教育支援方法が示された。

【非定型的な症状を捉え、異常の早期発見と対応ができるように具体的に助言】するため、高齢者は典型症状がでないこともあるため、訴えや症状を丁寧に観察する必要性を伝え（る）、アセスメントを促すための発問や具体的な方法の提示を行（う）い、リスクを予測した観察と看護技術を教育支援者と共に経験できる機会をつく（る）り、急変時の対応が具体的にイメージできるよう共にシミュレーションを行う等の教育支援方法が示された。

【経験の少ないケアをするときには、チーム全体で支える体制を整備】するでは、経験の少ないケアをするときには、チーム全体で新任期の看護師を支える体制を整える教育支援方法が示された。

【チームを信頼し、メンバーの一員として急変時の対応がとれるように助言】するため、担当医や医療機関への連絡・調整について具体的方法のモデルを示す、急変時の家族への対応をモデルとして示す、日常生活をよく知る介護職の気づきが、異常の早期発見につながる可能性への理解を促し、情報共有の具体的方法を助言する等の教育支援方法が示された。

以上より、新任期の看護師が多職種で協働しながら高齢者の心身の変化を早期に捉えた援助に向けた教育支援方法が示された。

安楽で安寧な看取りに向けた援助

安楽で安寧な看取りに向けた看護実践能力を育成する教育支援方法として、4の大分類と、18の小分類が示された。

【死をめぐるゆらぎの経験と向き合い実践を意味づける力を醸成】するため、死をめぐる戸惑いや後悔の思いを推察し、関わり始め（る）、今までの看取りの経験を確認しケアへの思いを聴くことを通して死にゆく高齢者と家族に向き合う姿勢を認め、援助目標を共に考え（る）、そして援助をともに振り返り、できたことを認め実践を意味づける教育支援方法が示された。

【最期まで心地よさを感じる緩和ケアを追究】するため、高齢者のより微弱になる苦痛のサインを察知し心地よい関わりを確認するという尊厳を護るケアや、最期まで高齢者の生活史・価値観を汲む援助を継続する意味を確認することを基盤に臨死期に生じやすい苦痛に予測的に対応し緩和する方法を助言する教育支援方法が示された。

【臨終の時を迎える家族の望みを実現する場の調整】に向け、最期を迎える家族の思いを尊重する姿勢を確認（する）し、死を見据え、家族が望む最期を確認する意味を伝え（る）、臨死期の症状を家族に説明し、不安に対応した関わり方を示す教育支援方法が示された。

【死にゆく高齢者への想いを認め合うチームケアを推進】するには、互いの思い・ケアを承認するデスカンファレンスを実施する チームで看取りケアの意義を認め合える場をつくる 教育支援方法が示された。

以上より、死にゆく高齢者への想いを認め合う関係性を基盤に、高齢者ケア施設の看取りケアにおける看護職の役割・責任の大きさと、新任期看護師の死をめぐるゆらぎに配慮した細やかな教育支援が、看取りケアを追究する力を発展させことが示された。そして、最期まで高齢者の生活史・価値観を汲む緩和ケアに向けた教育支援方法が具体的に示された。

2) 強化が必要な4つの看護実践能力を育成する教育支援の中核となる内容として、4の大分類、28の小分類が示された。

【高齢者看護の志向性を尊重】するため、新任期の看護師の主体的な姿勢を尊重し実践をつなぐ力を促進し、看取りに直面した死をめぐるゆらぎの経験と向き合い実践を意味づける力を醸成する等の教育支援方法が示された。【ニーズの本質を捉えた援助方法を助言】するため、日常生活援助において些細な変化を捉えることの意味づけや日常生活援助の中で埋もれている倫理的課題への気づきを促進すること、高齢者特有の

非定型な症状を捉え、異常の早期発見と対応ができるよう具体的に助言する等の教育支援方法が示された。【当事者主体の思考と最善のケアを追究】するために、看護師として高齢者の尊厳を護る基本的な役割を確認し、高齢者と家族の意思を尊重する態度を醸成することや最期まで心地よさを感じる緩和ケアを追究することを通して、

失われていない高齢者の思いを家族につなぐ役割を助言する等の教育支援方法が示された。【チームケアの意義と実践を強化】するために、チームケアの意義を認め合う関係性を構築し、経験の少ないケアをするときには、チーム全体で支える体制を整備する等の教育支援方法が示された。

これらは、新任期の看護師の高齢者看護の実践能力を育む教育支援の本質を表わしており、高齢者ケア施設への適用が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

坪井桂子:認知症ケアに活かす看護のチカラ 認知症介護, 18(2) 30-36, 2017.

[学会発表](計9件)

上田愛, 宗像倫子, 大野由貴, 花房由美子, 田中智子, 小池香織, 沼本教子, 秋定真有, 坪井桂子:一般病院における新任期看護師の倫理的に優れた認知症ケアへの教育支援方

法の検討-高齢者ケア施設の新任期看護師への教育支援方法の創出を目指して-, 第17回日本認知症ケア学会大会, 2016年06月04日~2016年06月05日, 神戸国際会議場

長谷川美智子, 杉原陽子, 岸上弥栄美, 田中涼子, 秋定真有, 坪井桂子:高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法-生活の中で老年症候群・BPSDの苦痛を捉え緩和する-, 日本老年看護学会第21回学術集会, 2016年07月23日~2016年07月24日
大宮ソニックシティ

宗像倫子, 大野由貴, 花房由美子, 上田愛, 田中智子, 秋定真有, 森本景子, 沼本教子, 坪井桂子:高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法 第1報 倫理的態度の育成, 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016年12月10日~2016年12月11日, 東京国際フォーラム

杉原陽子, 長谷川美智子, 岸上弥栄美, 秋定真有, 小滝桃子, 坪井桂子:高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法 第2報 食べる援助の育成, 第36回日本看護科学学会学術集会 2016年12月10日~2016年12月11日, 東京国際フォーラム

Mayu Akisada, Michiko Hasegawa and Keiko Tsuboi: Educational Support Methods of Enhancing Nursing Care Competencies for New Nurses Working in Elderly Care Facilities -Enhancement of Competencies to Respect the Mind of the Elderly with BPSD, The 20th EAFONS, 2017年03月09日~2017年03月10日, Regal Riverside Hotel, HongKong

Michiko Hasegawa, Mayu Akisada, Yaemi Kishigami, Yoko Sugihara, Momoko Kotaki, and Keiko Tsuboi: Educational Support Methods of Enhancing Nursing Care Competencies for Newly Employed Nurses in Elderly Care Facilities -Enhancement of Competencies for Geriatric Syndrome of the Elderly with Dementia-, 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International, 2017年04月26日~2017年04月29日, Kyoto International Conference Centre

長谷川美智子, 秋定真有, 岸上弥栄美, 杉原陽子, 小滝桃子, 坪井桂子:高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法-BPSDとして表出された苦痛を緩和する看護実践能力の育成-, 日本老年看護学会第22回学術集会, 2017年06月14日~2017年06月16日, 名古屋国際

会議場

長谷川美智子, 秋定真有, 岸上弥栄美, 小滝桃子, 杉原陽子, 坪井桂子: 高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法 高齢者の安楽で安寧な看取りに向けた看護実践能力の育成, 第2回神戸看護学会学術集会, 2017年10月28日, 神戸市看護大学

坪井桂子, 長谷川美智子, 岸上弥栄美, 杉原陽子, 宗像倫子, 上田愛, 田中智子, 秋定真有, 小滝桃子, 沼本教子: 高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法 老年症候群、看取り、看護倫理、急変の対応への教育支援の分析, 2018年6月24日, 久留米シティプラザ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坪井 桂子 (TSUBOI Keiko)
神戸市看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 80335588

(2) 研究分担者

秋定 真有 (AKISADA Mayu)
神戸市看護大学・看護学部・助教
研究者番号: 20738546

沼本 教子 (NUMOTO Kyoko)
京都橘大学・看護学部・教授
研究者番号: 00198558

小野 幸子 (ONO Sachiko)
新潟県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 70204237